

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		夢のテラス		公表日		R6 年 10 月 20 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	ワンフロアだが、遊びごとに部屋を区切り、遊びを分けられるようにしている。	すぐにカムダウンできる個室がないため(メインの部屋から離れてしまう)、ワンフロアの中で落ち着ける場所を用意しなければならない。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	規定の配置数は満たしている。	子ども全体が見渡せる位置に立ったり、おやつなどバタバタするときには、声を掛け合って、連携を図っている。より手厚く見られるよう、職員を多く配置できると尚よい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	運動スペースにはマット等を置いたり、机上での活動スペース、玩具スペース等、決まった場所で安心して遊ぶことができるよう配置している。	建物自体がバリアフリーではないため、段差があり、子どもが躓いてしまうことがあるが、足元に注視して歩くことも学ぶことができる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	日によって利用者増が違うため、毎日遊ぶ玩具や環境を変えている。また利用時間の前半後半でも環境を変えるようにしている。	年齢層や発達年齢の幅がある日は、誰かに合わせるようになるので工夫が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	静かな廊下を子どもがカムダウンエリアとして選んだときには、できるだけ他児が行かないようにしている。	和室(個室)を使うことが今は難しく、職員数の増員や部屋の安全の確保が絶対条件となる。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	できるだけ多くの職員が子どもの状況を把握し、情報を共有しておくため、業務日誌等を必ず読み、押印をする。支援終了後に振り返りをし、話し合う。	特に非常勤の職員が、支援時間以外に参画する時間が取りにくい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年に一度、事業所に対する保護者向けのアンケートを実施し、職員に共有している。	匿名のため、もし不満などがあっても個々には対応ができない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	日々の支援後に支援中に感じたことなどを話してもらい、なるべく早く解決策を考え、早期解決を目指す。	毎日職員が違うため、全員に情報共有するのに時間を要する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5		今のところ外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	月に一度、法人内の放課後等デイサービスと様々な内容で合同研修を行っている。	非常勤職員がなかなか参加できていない。ほとんどの時間利用者がいるため、当施設のみでまとまった研修の時間が取りにくい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	HPIに公表している。	作成したばかりなので、個々に丁寧な説明ができていない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	相談支援専門員からも話を聞き、支援計画作成に役立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	常日頃から、一番支援にかかわっている職員からの聞き取りを欠かさず行う。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	職員全員が個別支援計画に目を通す時間が取れないため、大切な支援目標や支援方法などは口頭でも伝えていく。	環境によって子どもたちの状態もかわるため、いつも一定の支援が行えるわけではない。その辺りを全員でカバーしていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	いつでもだれでもできるインフォーマルアセスメントに重点を置き、日頃からそれを共有し、支援に繋げる。	フォーマルアセスメントについては、結果用紙のみを読むことが多い。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	モニタリングの段階から、五領域を意識して話を聞き、支援目標を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	それぞれが意見を出し合い、その日の活動等を決め、環境設定を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	利用者に合わせて活動を考え、利用時間の前半後半でも環境を入れ替えるようにしてる。	より個々に合った課題を準備したいが、時間が取れず作成が追いついていない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	個別課題も同時に行うことで、模倣により意欲が湧くようにする。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	利用者の特性や前回利用時の様子を再確認してから、支援に当たっている。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	短い時間しか取れないが、ケース記録を書きながら振り返りを行っている。	もう少しまとまった時間を確保したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	ケース記録に加え、ヒヤリハットの記入と共有をし、安全第一で支援できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	6ヶ月に一度モニタリングを行っているが、必要に応じて時期を早め、支援計画を見直しする。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	事業所からは主に児童発達支援管理責任者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	まず保護者の方に家族支援に関する制度用を説明し、積極的に利用していただくことで、保育園等と連携をとっている。	今はまだ保育園や幼稚園等との連携のみなので、地域の保健センターとの連携を図りたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	家族支援加算や関係機関連携加算を利用し、利用者が併行利用している保育園等を訪問することで、集団での困り感などを把握し、環境を整える移行支援を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	5		昨年度は、まだ就学を迎える利用児童はいなかったが、今年度は可能な限り、保護者のニーズに応えていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1	併行利用している利用児童の情報交換の際に、助言やアドバイスをいただくことはある。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		子どもの特性上、実施するには様々な配慮が必要であり、保護者のニーズにも特に上がっていないため、今のところ予定はしていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	送迎時は子どものタイミングに合わせて、手短にその日のエピソードを話すようにしている。大切なことは、電話でお話しする時間を別途設けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	個別での相談の際には、ペアレントトレーニングを基にお話しています。	家族支援加算【Ⅱ】を利用してグループでのペアレントトレーニングはまだ実施できていない。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	利用契約時に時間を取って説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリングでは、家庭での様子と保護者の方の要望を考慮した上で計画を立てている。	モニタリング以外でのインフォーマルアセスメントからも積極的に計画に落とし込んできたい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	前回より特に変わった部分を示したり、特筆した箇所について分かりやすく説明している。	作成した支援計画についてもう少し丁寧に説明していきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者から要望があった際は、早急に時間を設けるようにしている。必要であれば、定期的な面談を提案する。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5	当施設では行っていないが、必要であれば地域の交流の場を案内している。	保護者同士が繋がれる場については、ニーズがあるため準備を進めたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	利用契約時に様々な制度の説明をしている。	なじみのない加算制度等なので、ニーズに合わせて随時説明し、利用していただくことが必要。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	保護者の方楽しんでる姿をみていただき、SNSは毎日更新するようにしている。	HPは今年度作成したが、まだ活用できていない。おたよりなども不定期にでも発行したい。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	契約時に個人情報同意書にて説明させていただき、サインをいただいている。		

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	本人が理解できる方法でのやりとりを心掛けている。保護者に対しても情報伝達がしやすい方法を取り入れている。(連絡帳、メール)	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	1	4	近所の方とは挨拶等のコミュニケーションを積極的に取り、理解を得られるよう務めている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアル等は全て作成済み。訓練は利用者層に合わせて、短い時間だがマニュアルに沿って行っている。	保護者への周知の部分で、マニュアル自体を見ていただく機会も設けたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	策定済み。様々な被害を想定して、避難経路等を決定している。実際に歩いてみることで、危険箇所などの予測もできた。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時のアセスメントで詳しく聞き、職員に共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	契約時に見せていただき、事業所での対応を保護者と一緒に考えている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画に基づいた研修等を短い時間だが行い、職員間で共有している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	家庭での危険な行動等の情報もいただくことで、未然に防ぐための特性への対応と一緒に考えている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリとしたことが支援中に起きた際には、原因や対策を話し合い、「ヒヤリハット」に記録しておく。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待研修については、法人内の放デイと合同研修を行ったり、県主催研修の伝達研修で知識を深められるようにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	幼児のみのため、身体拘束をするケースが想定される場合のみ同意書をいただく。		